

開催日時

2022年
1月22日(土)
18:30~20:30
(受付開始18:00~)

開催場所

浜松医科大学
医学部附属病院内
大講義室

浜松市東区半田山1-20-1
TEL:053-435-2111

会費

2,000円(一律)

世話人会

同日 17:45~18:20
浜松医科大学医学部附属
病院内 小講義室

第9回 ふじのくに 眼科フォーラム 開催のご案内

(日本眼科学会専門医制度 認定 25180 B-4)

現地開催およびWeb開催の併用
(ZOOMウェビナー)
【会場参加者:2単位/Web参加者:1単位】

謹啓 先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、下記の通り第9回ふじのくに眼科フォーラムを開催致します。今回は新型コロナウイルスの感染予防のため会場での実施に加え、Web配信での参加も可能としております。
希望される先生はWebで配信された映像をご自身のパソコン等で視聴していただくことも可能ですので、是非ご出席を賜りたくご案内申し上げます。
謹白

プログラム

開会のご挨拶

堀田 喜裕 先生(浜松医科大学眼科講座 教授)

講演1

座長 彦谷 明子 先生(浜松医科大学医学部附属病院眼科 病院准教授)
「眼瞼炎治療戦略~セルフケアから最新の治療まで~」
演者 有田 玲子 先生(伊藤医院 副院長・LIME研究会 代表)

講演2

座長 堀江 英司 先生(矢田眼科医院 副院長)
「網膜硝子体疾患における病態の解明」
演者 岩瀬 剛 先生(秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系眼科学講座 教授)

講演3

座長 柳田 和夫 先生(やなぎだ眼科医院 院長)
「Zinn小帯脆弱眼への対処法」
演者 太田 俊彦 先生(順天堂大学医学部附属静岡病院 副病院長/教授)

「眼瞼炎治療戦略 ～セルフケアから最新の治療まで～」

伊藤医院 副院長・LIME研究会 代表 有田 玲子 先生

マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction, MGD) は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが失明しない疾患でもあり、見過ごされることが多かった。しかしながらその眼不快感に悩まされる患者は多く、症状も長期にわたる場合が多い。また昨今のコロナ禍におけるVDT使用時間の増加に伴うMGD患者の増加は明らかで、近年、特に「瞼」に対する重要性が高まっていることは言うまでもない。本セミナーでは実際のMGD患者の臨床例をまじえながら、アジスロマイシン点眼液の最適な適応症例、患者への服薬指導、セルフケア、世界最先端の話題までの一連を披露し、明日からの臨床に役に立つ内容をお届けする。

「網膜硝子体疾患における病態の解明」

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系 眼科学講座 教授 岩瀬 剛 先生

近年の硝子体手術ではsmall-gauge、広角観察システム、明るい照明システム、カッターの高速回転化などの周辺システムの開発の進歩は目覚ましく、安全でより均一化した手術が可能となってきました。また、外来においてはOCTやOCTangiographyをはじめとする検査機器の登場により、以前は動物モデルでしか観察できないような所見が生体内で経時的に観察できるようになりました。これらの硝子体手術を行い、術前後の詳細なデータの解析から得られた網膜硝子体疾患における新しい知見についてお話しさせていただきます。

「Zinn小帯脆弱眼への対処法」

順天堂大学医学部附属静岡病院 副院長 太田 俊彦 先生

我が国の高齢化社会の到来により、白内障手術件数は著明に増加し、術後の眼内レンズ (IOL) 偏位・落下例が増加している。以前は術後早期の囊外固定IOL偏位・落下例が主であったが、最近では晩期の囊内固定IOL偏位・落下例が多く認められる。発症率は過去の報告では0.05～3.0%であり、白内障手術から発症までの期間は4.5ヶ月～18年である。危険因子として、落屑症候群、硝子体手術の既往、外傷の既往、ぶどう膜炎、強度近視、網膜色素変性などのZinn小帯脆弱を背景とした疾患が報告されている。対処法として、軽度のIOL偏位例に対しては、片側縫着が適応となる症例もあるが、重度のIOL偏位・落下例では、IOLの摘出とともに、縫着術あるいは強膜内固定術などのIOL二次挿入術が用いられる。また最近、核が硬い症例の核分割が容易に施行可能となる核分割デバイスとしてmiLOOPが登場した。核が硬い症例の白内障手術では、核分割操作における超音波時間の延長による超音波エネルギー量の増加とともに、角膜内皮やZinn小帯への影響が危惧される。しかしmiLOOPを用いた核分割では、超音波時間の短縮による超音波エネルギー量の低減とともに、眼内組織への影響も最小限となる。さらに超音波白内障手術のみならず、他の白内障手術においても応用可能である。本講演では、現在我々が行っているIOL偏位・落下例、水晶体偏位・落下例などZinn小帯脆弱眼への対処法、miLOOP使用の実際について述べる。

御略歴

1994年 京都府立医科大学卒業	2007年 東京大学眼科臨床研究員
2001年 京都府立医科大学大学院博士課程修了	2011年 慶應義塾大学眼科講師 (非常勤)
2002年 慶應義塾大学眼科助手	2012年 LIME研究会代表
2005年 伊藤医院眼科副院長	2021年 日本角膜学会評議員

MEMO

御略歴

1992年 金沢大学医学部医学科卒業	2008年 ジョーンズホプキンス大 留学
1992年 金沢大学医学部附属病院 眼科研修医	2012年 名古屋大学医学部附属病院 眼科助教
2001年 富山赤十字病院 眼科部長	2015年 名古屋大学医学部附属病院 眼科講師
2003年 ハーバード大学 研修	2019年 秋田大学大学院医学系研究科
2003年 富山県立中央病院 眼科医長	医学専攻病態制御医学系 眼科学講座 教授

MEMO

御略歴

1983年 東京医科大学医学部卒業	1999年 順天堂大学医学部附属静岡病院 眼科 講師
1983年 順天堂大学医学部 眼科学教室 入局	2004年 順天堂大学医学部附属静岡病院 眼科 助教授
1984年 順天堂大学 眼科 助手	2007年 順天堂大学医学部附属静岡病院 眼科 先任准教授
1988年 順天堂大学浦安病院 眼科 助手	2013年 順天堂大学医学部附属静岡病院 眼科 教授
1993年 順天堂大学 眼科 助手	2018年 順天堂大学医学部附属静岡病院 院長補佐
1996年 ルイジアナ州立大学 眼科 留学	2019年 順天堂大学医学部附属静岡病院 副院長

MEMO